# 東奥日報2026年10月27日（火）付掲載

つなぐ 私たちの祭典 ⑤
——2年目を支える

青い海と森の音楽祭
10/31–11/8

## 影アナウンス・司会 菅原有紗さん（弘前大1年）

# 聴衆・出演者の架け橋に



「聴衆と出演者をつなぐ架け橋のような存在に」。青い海と森の音楽祭最終日の11月8日、青森市のリンクステーションホール青森で開かれるオーケストラコンサートの影アナウンスを務める弘前大学1年の菅原有紗さん（19）は清涼感のある声でそう語る。

聴衆に姿を見せず舞台裏で場内案内を行う影アナウンス。菅原さんが務めるのは2年目だ。高校3年生だった昨年は、音楽主幹・ソプラノ歌手の隠岐彩夏さん（五所川原市出身）から依頼された形だったが、今年は「少しでも地元を盛り上げる力になりたい」と自ら応募した。

菅原さんは隠岐さんと同じ五所川原高校出身。高校時代に所属していた放送部の活動の中で隠岐さんを取材したことから縁がつながった。昨年は3公演の影アナウンスを務め、スムーズな進行をサポートした。

一流のプロ演奏家が出演する本格的なコンサートでの影アナウンスは初めてだったという。「隠岐さんが優しく声をかけてくれたおかげで緊張がほぐれ、一度もかまずに読むことができた」と振り返る。音楽祭での経験が自信につながり、昨年7月のNHK杯全国高校放送コンテストのアナウンス部門では準決勝に進出、入賞を果たした。

将来は放送関連の仕事に就きたいという菅原さんは、さらに深く地域を知りたいとの思いから、フィールドワークが盛んな弘前大人文社会科学部に進学。現在はラジオサークルに所属し、月1回程度、コミュニティーFMの生放送に仲間と出演している。

音楽祭初日の10月31日には、自身の母校でもある中泊町の中里中学校でのアウトリーチ（出前演奏会）の司会も務める。

「厳かな雰囲気のオーケストラコンサートと違ってアウトリーチは親しみやすさが大切だと思う」と菅原さん。アナウンス用の原稿もようやく届き「もっと練習しないと」と意気込む。悩みはアパートでの1人暮らしであること。「声を吸収する防音マイクを使い隣人に配慮しながら練習しています」とほにかむ。

（長谷川恵子）

＝終わり＝

影アナウンスと司会を務める菅原さん＝10月23日、弘前市の東奥日報社弘前支社

無断での複製・転載・生成AI利用を禁じます